



HPはこちら

# 東日本ユニオン NEWS

J R 東日本労働組合  
発責 教育・広報部  
2018年11月1日 No.31

## 2018年度 年末手当 第1回団体交渉

東日本ユニオンは11月1日、申第9号「2018年度 年末手当の関する申し入れ」の1回目となる団体交渉に臨み、組合側より要求の趣旨説明を行い、経営側からは現状認識と年末手当交渉に対する基本スタンスが示されました。

### 組合側の趣旨説明（要旨）

#### 【予想を超える収入と利益を上げる！】

- 「第2四半期決算」は「増収減益」であったものの、連結決算では「増収増益」に転じ、経常利益と四半期純利益は過去最高を記録した。
- 「すべての利益が減益」としているが、4月に公表した累積期間の業績予想を超える利益を上げている。経営側の目標を上回る収入と利益を上げた結果に、費用の増加を収益で相殺しようと努力したJ R労働者の並々ならぬ努力が読み取れる。
- あらゆる部門、分野で働く多くのJ R労働者の奮闘と努力の積み重ねによって、日々の安全・正確な輸送商品を生み出し、間違いなく当社の信頼というブランドイメージを固めている。安全・正確の両立は非常に困難であるにも関わらず、その相対する課題を当たり前のように実現し続けているJ R労働者の努力が、今期の結果につながっている。経営側には今期のJ R労働者の努力を受け止め、応分の配分をする責務がある！

#### 【私たちは社員であり、生活者でもある！】

- 原油価格が高騰しているが、当社の業績に与える影響だけにとどまらない。石油素材に関連する製品で値上げが相次ぎ、ガソリンや灯油価格も高止まりし、人手不足による物流費用の増加と相まって生鮮食料品や生活必需品の値上げや高止まりなど、私たちの生活にも大きな影響を与えている。J R労働者の生計費を考えた場合、期末手当も無視はできない。

#### 【理性的な要求を掲げ、要求満額回答を求める！】

- J R 東日本労働組合の要求は、7期連続の増収を実現させ、さらにはコスト削減を通して増益の実現をめざすグループに働くすべてのJ R労働者の努力はもとより、有期雇用の不安を乗り越え人材育成の重責を担うグリーンスタッフの努力と、昇給停止、調整措置を適用されている中でも今なお技術を磨き、継承するための努力を続ける55歳以上のJ R労働者の努力に対する成果配分として理性的に導き出した要求である。  
要求に対する満額回答は十二分に可能である！